

エア一匏(かんな)による美観改善と長期保存処理 日本文化の伝統の精神を大切にし、後世につなぐ

同社は、日本文化の代表格の一つである歴史的木造建築物をはじめ、住宅、店舗、オフィスビルから医療施設等の環境衛生設備まで、安価で効率的な維持管理方法を研究し、新しい技術や工法を開発している。同社が開発したエア一匏は、植物性粉体を吹き付ける木材の美観改善工法である。この工法を柱にした「常若(とこわか)施工」は、一般木造建築物に加えて、二条城・明治神宮・平安神宮・首里城などの重要文化財でも活用されている。「常若施工」により木造建築物を常に若々しくすることにチャレンジしている。

所在地 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学BKCインキュベータ内
電話/FAX 077-564-8515/077-564-8513
URL <https://grandline.works/>
代表者 代表取締役 早川 悟

設立 2007年
資本金 250万円
従業員数 2名



木部再生の新技术「エア一匏工法」を開発 修復費用・工事期間が大幅改善

従来、木造建物を美しくするには「洗い」と呼ばれる湿式工法が使われていた。湿式工法は薬剤を使うため熟練が必要で劣化した木材（彫刻物他）には使えないという課題があった。そこで同社は「木で木を磨く」との考えからエア一匏を開発。エア一匏は木材再生の新技术で、植物性の粉体をエアで対象物に吹き当て、汚れや劣化層、古くなった既存の塗膜を取り除くなど、美観改善と修復ができる乾式工法である。本工法により木造建築物の美観改善や修復維持にかかる費用の削減、工事期間の大幅な短縮が可能となった。



木部再生の新技术「エア一匏工法」

診断による早期発見と早期治療・メンテナンスにより、将来の大出費を回避

木造建築物は、大きく劣化してしまうと修繕・回復費用が莫大になる。このため木造建築物の部材劣化を予防し、大出費を回避させる独自の維持管理方法を提供している。具体的には、①診断：木材保存士・木材劣化診断士の診断をもとに最適な長期保存・維持管理プロセスの提案、②独自に開発した技術である「常若施工」で美観を改善、③定期メンテナンスサービスによる劣化（木材腐朽菌、シロアリ含む）の予防、などである。日本文化の代表格に位置づけられている木造建築物を後世に継承することを目指している。



早期発見と早期治療・メンテナンス

「常若施工」に必要な技術にチャレンジ パートナへ技術指導を実施し全国展開へ

重要文化財などの難易度が高い案件に備えるため、継続的に「常若施工」に必要な技術にチャレンジしている。具体的には、①エア一匏工法の開発、②木材専用洗浄剤などの開発、③水だけで木材の汚れをきれいにする特殊ブラシの開発、などである。また、習得した技術はパートナへの技術指導を実施。地域ごとの施工はパートナが担当し、重要文化財などの難易度が高い業務は、同社が出向き重要なポイントの技術指導をしている。全都道府県に展開するため現在 27 パートナと契約し技術指導・ノウハウを提供している。



「常若施工」に必要な技術にチャレンジ